



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：プーチン・ロシア大統領の訪問 (25～26日付現地各紙)

研究員 江崎 智絵

1. プーチン・ロシア大統領のイスラエル訪問

2012年6月25日、ロシアのプーチン大統領は、イスラエルを訪問し、ペレス大統領及びネタニヤフ首相と会談した。プーチン大統領のイスラエル訪問は、7年振り、2度目となる。会談では、シリア情勢及びイランの核開発問題について協議された。

(1) シリア情勢

イスラエル外交筋によると、プーチン大統領は、ペレス大統領との会談において、自身がシリアのバシール・アサド大統領に対する義務を負っているわけではないとする一方、西側に対し、アサド大統領を辞任させようとする前に熟考するよう求めた。これに対し、ペレス大統領は、生物及び化学兵器がシリアから流出し、ヒズブッラー等の組織に渡ることのないよう、シリアを安定させるための活発な取組みをロシアに求めたようである。

(2) イランの核開発問題

プーチン大統領は、ペレス大統領との会談において、イスラエルに対し、米国によるアフガニスタン及びイラク攻撃から教訓を得るよう促すと共に、イスラエルによるイラン軍事攻撃について、時期尚早な行動は慎むべきであるとの姿勢を示した。ペレス大統領は、イスラエルがイランの生存を脅かしているのではなく、イランがイスラエルを敵と認識し、その生存を脅かしていると述べた。また、ペレス大統領は、イランがイスラエルに対する明確な脅威であることを確認し、イスラエルを破滅させようとする者が核兵器を手に入れることは容認できないとした。

プーチン大統領は、ネタニヤフ首相との会談後の共同記者会見において、交渉こそが問題解決に向けた唯一の方策であるとの見方を示した。ネタニヤフ首相は、イランによる核兵器の入手が極めて危険であるとし、イランに対する制裁及び要求の強化という二つの取組みが必要であると述べた。また、ネタニヤフ首相は、イランによる全てのウラン濃縮活動が停止され、コム付近での地下核施設は破壊されなければならないと主張した。

2. プーチン・ロシア大統領のパレスチナ自治区訪問

6月26日、ロシアのプーチン大統領は、ヨルダン川西岸地区のベツレヘムを訪問し、アッバース・パレスチナ自治政府大統領と会談した。プーチン大統領は、会談において、パレスチナ独立国家の承認という行為についてロシアには問題がないとの立場を明らかにした。また、プーチン大統領は、イスラエルによる入植活動の拡大といった一方的措置を非難し、二国家構想に基づき平和的な解決策の模索に努めているアッバース大統領の姿勢を責任あるものと表した。

アッバース大統領は、イスラエルとの交渉が最大の目標であることに変わりはないとし、イスラエルとパレスチナとの和平合意の締結以前からイスラエルの刑務所に拘束されているパレスチナ人囚人を釈放するようイスラエルへの説得をロシアに求めた。